

HULFT7-FTP機能比較表

#	項目	HULFT	FTP	(Win)SCP	備考
1. データ転送					
1.1.	データの圧縮	○	×	○	HULFTは事前の設定に準じて集配信時に自動的に圧縮/解凍を行うSCPは[-C]オプション指定でデータの圧縮が可能
1.2.	データの暗号化	○	×	○	HULFTはデータ部分の暗号化を行う(制御電文は暗号化せず)SCPはSSHセッション上で暗号化通信を行うオプション追加によりAESも使用可能
1.3.	通信速度調整	○	×	△	HULFTはファイルID毎に間欠転送設定可能 WinSCPは転送スピード制御が可能
1.4.	データ破損チェック	○	×	×	HULFTはハッシュによるデータ整合性チェックが可能
1.5.	通信対象端末をグループ化	○	×	×	HULFTは事前に転送グループ情報の定義を行い、管理可能
1.6.	複数ホストへの同報配信	○	×	×	HULFTはグループ定義に従って同報配信が可能
1.7.	ノード毎に同時セッション数の上限を指定	○	×	×	HULFTは配信先ノード毎に配信多重度を設定可能
2. ファイルの扱い					
2.1.	バイナリ転送/テキスト転送	○	○	○	事前に何れかを選択して設定を行う
2.2.	文字コード変換	○	△	×	HULFTもFTPも全文字コードを網羅しているわけではない HULFTの方がFTPよりも多数の文字コードを網羅している
2.3.	改行コード変換	○	○	×	HULFT、FTPはテキスト転送時にプラットフォームに応じ自動的に行われる
2.4.	外字(機種依存文字)変換テーブルの設定	○	×	×	HULFTは運用ルールに基づいたコードテーブルに従って設定する
2.5.	フォーマット転送	○	×	×	HULFTはバイナリ/テキストが混在したファイルのフォーマット情報を定義/転送可能
2.6.	集信ファイルに追加書き等の設定	○	×	×	HULFT新規/上書き/追記の設定が可能
2.7.	集信ファイルの世代管理	○	×	×	HULFTはファイル末尾に0001~9999までの世代番号を自動的に付与することで 以前のファイルを削除せずにパラレルに集信が可能

#	項目	HULFT	FTP	(Win)SCP	備考
3. 集配信前後の連携					
3.1.	転送ジョブ連携	○	×	×	HULFTの転送の成否に応じて後続ジョブを実行させられる
3.2.	連携ジョブへ引数の引渡し	○	×	×	HULFTは集配信ファイル名やレコード数等を後続ジョブに引き継がせられる
3.3.	集配信ファイル名を動的に変更	○	○	○	ファイル名にタイムスタンプ等の制御情報を含むファイルを引数として渡す事でHULFTの配信対象と可能 (集信ファイル名は集信管理情報の設定に準じる)
4. 集配信履歴管理					
4.1.	集配信履歴の管理	○	×	△	HULFTは成功/失敗 集配信ファイルサイズ、レコード数等の確認が可能
4.2.	転送失敗時に履歴を出力	○	×	△	HULFTは失敗原因をエラーコードで確認可能 WinSCPはlogファイルを作成可能
4.3.	配信失敗時の再送	○	×	×	HULFTは設定により再送時に途中まで送った状態から継続して配信可能
4.4.	設定ファイル更改時の履歴を出力	○	×	×	ファイルアクセスログにより、設定ファイルの更改に関して後から確認可能
5. オプション機能					
5.1.	スケジュール機能	○	×	×	HULFT関連製品であるiDIV0との連携で強力なスケジューラ機能が使用可能
5.2.	データ加工機能	○	×	×	HULFT-DataMagicにより、各種文字コード変換、フォーマット変換、CSV、XML等のファイル形式の変換が可能 各種DBとの直接接続が可能
5.3.	メール連携	△	×	×	HULFT (Windowsのみ)は集配信実行毎に管理者へのメール発行が可能(ただしSMTPのみ対応)
5.4.	HULFT Managerで集中管理	○	×	×	HULFTはWindows上のManagerより各種プラットフォームのHULFTを操作可能
5.5.	HULFT-HUBで集中管理	○	×	×	HULFTはHULFT-HUBを経由した転送制御が可能 転送失敗時の再送がより柔軟に行える